

2020/02/05

JAPIA シート Q&A 会 質疑メモ

部工会・技術部

【 JAPIA シートについて 】

- Q) JAMA シート、JAPIA シートの将来の見通しを教えてください。今後はなくなる方向か
- A) JAPIA サイトのアクセス件数は、記録がある 2015 年度以降年 5%ペースで一貫して増加している。ただ、利用量については、「変わらない」、「減っている」、「新たに使い始めた」など様々な声があり、実情は不明。JAPIA としては、ツール選択に関しては、引き続き推奨も誘導もしない
- Q) JAPIA シート、IMDS、chemSHERPA 今後統合されていくか
- A) 十数年かかって、国内の産業界が現在の 3 ツールの収斂してきたのには、それなりの意味があると考えられる。世界的に見ても、それぞれの地域・業界には、法規制の違い、製品の特性、商習慣の違いなどにより、最も効率的に物質調査を行うためのいくつかのツールが存在している。物質調査ツールは日々変化を求められる宿命があり、迅速な意思決定をしていくためには、複数ツールの存在は避けられないと考えられる。複数の業界にまたがるビジネスをされている企業にとっては、互換性の点で不満があるかとは思われるが、産業界全体の視点では最適状態であると理解していただければよいと考える
- Q) システム構築について。初版と改版の違いは
- A) 機能は変わらない。プログラム、外部リスト、資料類の不備修正程度の見込みである。従って、初版をベースにシステム準備を進めていただければよい
- Q) 10 月以降、フォローアップ説明会の開催予定はあるか
- A) ない。4 月の説明会で 10 月の切替実施までを説明する（4/8 東京、17 名古屋）
- Q) JAPIA シートの動作環境（OS/Office 環境）
- A) 2020 年 4 月時点の JAPIA シート(初版)は、現行の動作確認済環境となる予定

[動作確認済み環境] (JAPIA HP に掲載)

- ・Windows 7 SP1 (32bit 版) + Excel2013 (32bit 版)
 - ・Windows 10 (64bit 版) + Excel2016 (64bit 版)
- ※Windows 7 は、2020/1/14 に Microsoft のサポート終了

2020年10月1日時点の JAPIA シート(改版)動作確認済環境は、以下の通りとなる予定。

[動作確認済み環境]

- ・Windows 8.1 (64bit 版) + Excel2013 (64bit 版)
- ・Windows 10 (64bit 版) + Excel2016 (64bit 版)
- ・Windows 10 (64bit 版) + Excel2019 (64bit 版)

【 JAPIA シート BSL に関すること 】

Q) JAPIA シート BSL に物質の略語は掲載されないのか

A) 慣用名は引き継がれている

Q) 文字コードは Shift-JIS か

A) Shift-JIS

Q) JAPIA_ID と IMDS NODE_ID の対応関係は 1 対 1 か

A) 1 対 1

Q) JAPIA シート BSL は年何回変更される予定か

A) 年 3 回変更予定。4 月、7 月、10 月の予定

Q) 使用されなくなった JAPIA_ID はファイルから削除されるか。欠番になったり別の化学物質に使いまわされることはあるか

A) 一旦 BSL に収載した物質は原則削除しない。削除するケースは、法規制などの変化により、物質をより細分化して把握する必要が生じた場合など。また、ID の使い回しはしない

【 JAPIA シートの機能に関すること 】

Q) JAMA シート、JAPIA シートの互換性について

A) JAMA シート (2006 年の Ver.2.01 以降) と JAPIA シート (2020 年の Ver.4.00 以降) は一貫して上位互換性を保っている。自動変換機能は今後も継続して搭載する。エラーチェック後に 1 度だけ変換される

Q) 現行 JAMA シートで「Not found:」を使って記述された物質は、JAPIA シートで変換されるか

A) 現行 JAMA シートで「Not found:」を使って記述された物質は、JAPIA シート上で過去データの自動変換処理では変換されないが、JAPIA シート BSL に CAS__RN が存在する物質であれば、従来よりある「Not found:」の自動置き換え機能により、エラーチェックのタイミングで変換される。JAPIA シート BSL に CAS__RN が存在しない物質であれば、「Not found:」のまま伝達されていく。従っていずれも問題ない

Q) CAMDS ヘデータを変換するツールがほしい

A) 引き続き JAPIA から提供していく

Q) XML 出力機能がほしい

A) 富士通製品として市販していただく。担当者に引き継ぐので、JAPIA に連絡を

【 JAPIA シートの資料に関すること 】

Q) 記入帳票、外部ファイル、各種ドキュメント類の提供方法を教えてほしい

A) これまで通りホームページからダウンロードする形式

Q) JAMA シートのような詳細なマニュアルや入力事例等は添付されるか

A) これまでのものを、体系的に整備・充実して公開していく

Q) 中国語のドキュメントを作る予定はあるか

A) 予定はない

Q) 今後の問い合わせ先

A) 以下 4 つの窓口を用意した

1 BSL の内容および開示に関すること

<https://www.japia.or.jp/datasheet20200117a/>

2 JAPIA シートの機能に関すること

<https://www.japia.or.jp/datasheet20200117b/>

3 JAPIA シートの資料に関すること

<https://www.japia.or.jp/datasheet20200117c/>

4 その他

<https://www.japia.or.jp/datasheet20200117d/>

以上